

みやぎ県南医療生協大震災ニュース

2011年4月5日

事業所は揺れが大きかったものの、クリニック駐車場の一部が陥没した程度で、建物、職員に被害はなし。また事業圏の柴田町、大河原町、村田町、角田市などは地震による建物の一部損壊はあったもの、津波などの被害はなく、停電や断水の中でクリニックは、14日から診療を継続、デイサービスセンターあおぞらもガソリンが尽きた15日まで通所介護サービスを継続、23日から再開した。

組合員数 約5400世帯（3月時点）

クリニック

停電で電子カルテ、画像処理などの機器は全く使用できず、お薬外来形式で診療を行い、最初の一週間で500名の患者さんを診療。診察室が寒いので晴天の日は、日当りの良い別棟のプレハブ通路に臨時診察室を設けて診療を行う。その後も通常通りに診療を継続。

あおぞら

揺れは大きかったが、職員・利用者さんとも無事で、震災当日家に戻れる状況にない利用者さん3名の臨時宿泊を受け入れ、避難所からの2名と合わせて5名が宿泊する。また、柴田町からの要請で高齢者1名の臨時宿泊を16日～18日受け入れた。23日からは、自宅で入浴のできない利用者さんの入浴サービスを実施して45名が入浴。また、大きな被害を受けた山元町の要請を受けて、入浴困難な要介護の高齢者の入浴を4月4日（6名）から通常業務終了後受け入れた。（一日2時間最大10名を予定、柴田町から山元町までは車で片道40分の距離）震災後初めての入浴となり、大変感謝された。4日から尼崎医療生協の介護職員2名、看護師1名の支援と職員、ボランティアで対応、下着などの衣類も提供した。

組合員さん

震災直後から一人暮らし等困難な状況にある組合員さんを支部役員や地域活動担当の職員が訪問、その後理事・職員を含めて電話などで安否確認を行った。更に支援を得て山元町、亶理町の安否確認を実施中

津波被害地域

浜沿いの山元町、亶理町は大津波が押し寄せて、浜沿いは壊滅状態。多くの犠牲者と行方不明者が出ている。この地域は大きな被害にも関わらずマスコミでも殆ど報道されなかった地域で、組合員さんが50名ほど住んでおり安否確認、訪問を行っている。